

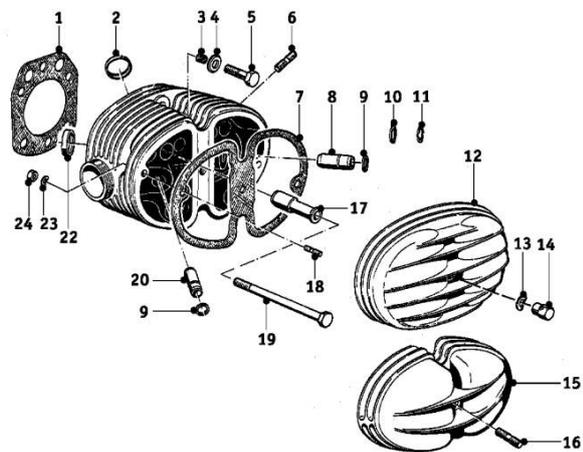
BMW R50-60 シリンダーヘッド・コンフリート

1960年代、ドイツで大気汚染が社会問題になり環境にやさしいアルミ素材製造に移行したようですが検証が足らなかったようで温度上昇で材質が柔らかくなり、バルブクリアランスが維持できなくなり、始動不良やオーバーヒートに発展する事例が多くなったようです。吹き抜けにより出力低下がオーバーヒートに輪をかけ、キャブレターの熱歪みを助長させ適切にメンテナンスできなかった車両は走行距離では想像できないほど悪い状態に陥っているモノも多いようです。

長らく新品の流通が無かったのですがようやくリーズナブルな価格帯で購入できるようになりました。



人気の厚肉クーリング・フィンと当時の純正と同じショートリーチ・プラグ用の設定になっています



バルブは組込み済みでP・ロッド、ロッカーブロック、ヘッドカバーなどは元の車両から移植します

左右同時に交換すると色や仕上がりに違和感が出ないのでお勧めですが損傷箇所がある側だけでももちろん可能です。

CRIMECA